

平成 30 年度第 3 回デ活シンポジウム

「災害拠点となる建物に要求される耐震性能」

日時 平成 30 年 12 月 5 日（水）10:00～12:10

場所 全国町村会館 2 階ホール

【挨拶】

竹内 英（文部科学省研究開発局 地震・防災研究課長）

本日はご多忙にもかかわらず、各業界においてご活躍の皆さまにお集まりいただき、心より感謝を申し上げます。

日本では毎年、多くの自然災害が発生しています。本年も地震、台風、豪雨により多くの尊い命が失われました。また、甚大な物的被害、経済被害も発生しており、日本の防災・減災力を向上させ、組織や個人の安全・安心を確保するレジリエントな社会の構築が急務となっています。

この首都圏レジリエンスプロジェクトが目標とするのは、レジリエントな社会の構築のために、総合的な災害対応や事業継続、個人の防災行動等に資する適切な情報を提供する体制を確立することです。この目標の達成に向けて、防災科学技術研究所を中心に関係者が相互に協力・連携しながら研究開発に取り組んでいます。産官学民の連携を実践する場としてデータ利活用協議会が発足し、その取り組み状況を、本日のように定期的にシンポジウムを開催して皆さまと共有しています。今後、デ活では、レジリエントな社会を実現するために皆さまとの連携を強化し、その成果を社会実装に結び付けていくことが重要だと思っています。そのためには、企業の皆さまの防災・減災の取り組みにおける課題を伺い、レジリエンスプロジェクトの成果をどのように活用すれば皆さまの取り組みに貢献できるかというコミュニケーションを十分に取ることが重要ですので、皆さまのご協力を頂ければ幸いです。

本日のシンポジウムはサブプロジェクト（c）主催で、「災害拠点となる建物に要求される耐震性能」と題し、大規模地震発生時においても確実に事業継続できる建物の耐震性能に関わる研究開発について、皆さまから紹介していただくことになっています。組織や企業の防災力、ひいては首都圏の防災力が飛躍的に高まるよう、防災関係の皆さまとの協力関係を今後とも強化していくとともに、本日の議論が有意義なものとなることを祈念し、私のあいさつとさせていただきます。